

# 2-8 北九州市の支援活動 北九州市と釜石市の「鉄の絆」

## 2-8-1 市民・行政が一体となった支援活動、交流事業

### ① 2011年～2012年

行政による取り組みに加え、北九州市の市民・企業・団体等により、釜石市や釜石市民を対象に、様々な支援活動や交流事業が行なわれた。以下、支援の取り組みを一部紹介する。(詳細は「4.資料」(P216～P248)に掲載)  
(令和2年度は、新型コロナウイルス感染防止対策のため中止となった。)

#### 東日本大震災が起こった 2011年



▲4月 北九州市市民ボランティアによる、被災家屋から瓦礫の撤去作業。



▲3月 北九州市内で街頭募金活動。



▲5月 励ましのメッセージ入りうちわを釜石市へ送付。



▲10月 「復興釜石まつり」で北九州市からも出店。小倉発祥の「焼うどん」を振る舞う。



▲8月 北九州市消防局のイベントでの寄せ書きや、北九州市立花房小学校から贈られた折鶴を釜石市の避難所へ。



▲12月 北九州市内の小学校から釜石小学校へ、励ましの贈り物が届く。

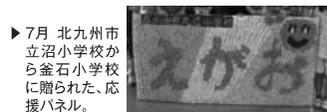
#### 震災1年後 2012年



▲2月 北九州市で開催「第12回小倉食市食座」で、釜石の名産品を販売。



▲3月 北九州市立黒畑小学校から釜石小学校へ贈られたメッセージ。



▶7月 北九州市立沼小学校から釜石小学校に贈られた、応援バネル。



▲8月 釜石FCの子供達を招き、北九州市のスポーツ少年サッカーチームと交流試合。

#### 震災1年後 2012年



▲8月 北九州市の「わっしょい百万夏まつり」。(写真左)開会セレモニーでは、「チャリティー餅つき」を行って来場者に振る舞う。(写真中)釜石名産品の数々も販売。(写真右)県立釜石商工高校の生徒が北九州市長へ「釜石虎舞」の初披露。



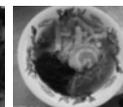
◀8月 福岡県立戸畑工業高校にて義援金のお礼に、釜石商工高校の「釜石虎舞」を披露。



▶8月 釜石商工高校でダンスを披露した、北九州市立高校ダンス部。



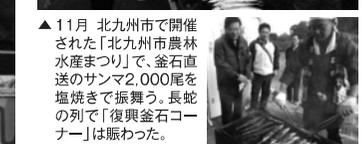
▲8月 釜石東中学校の生徒と北九州市の中・高校生。義援金とともに、ひまわりの苗を釜石市内の小中学校へ贈った。釜石市長を表敬訪問。



▲10月 「北九州市エコライフステージ2012」で、釜石ラーメンをチャリティー販売。



▲11月 「再生釜石産まつり」で、今年も焼うどんをチャリティー販売。



▲11月 北九州市で開催された「北九州市農林水産まつり」で、釜石直送のサンマ2,000尾を塩焼きで振舞う。長蛇の列で「復興釜石コーナー」は賑わった。

◀11月 ステージでは、北九州市職員がステージイベントも行った。

2-8-1

震災2年後 2013年



▲2月 北九州市内で開催した「第13回食市食座」「北九州市市政50周年誕生祭」で、釜石直送のホタテやイカの浜焼きをチャリティー販売。売上金は釜石市ふるさと寄付金へ。



▲2月 北九州市で開催された「釜石交流会」で、釜石市の復興を支援する協力者が一堂に集まった。



▲5月 北九州市の銘菓「八幡饅頭」を釜石市内の仮設団地に配布。総計1万個の提供。



▲7月 シープラザ釜石で開催された「北九州市からの手紙展」では、北九州市民から釜石市民へ寄せられた手紙を展示。



▲8月 北九州市の「わっしょい百万夏まつり」。この年は北九州市立大学生の協力で、釜石産食材使用の「絆焼うどん」が大盛況の売れ行き。被災地の商品も数々販売。



▲北九州市でも、「かまリン」は人気者。

▶11月 北九州市で開催された「北九州市農林水産まつり」で、今年も大好評に応え、サンマ2,000尾を塩焼きで振舞う。



毎年実施したもの

② 毎年実施したもの

◆「わっしょい百万夏まつり」に「被災地応援ブース」を設置(8月、平成23年度～)



◀北九州市立大学生が中心となり、釜石のイカと小倉焼うどんをコラボした「絆焼うどん」を販売し、売上は釜石市へ寄付された。

◆「釜石まるごと味覚フェスティバル」に「北九州市ブース」を出展(9月、平成25年度～)

北九州市の名産品や「絆焼うどん」を提供し、売上金は釜石ふるさと寄付金として釜石市へ寄付された。

◆「北九州市農林水産まつり」における釜石直送の「サンマの振舞い」(11月、平成24年度～)



▶支援のお礼に釜石市から、2,000本の焼きサンマが無料で北九州市民に振舞われた。

◆「北九州マラソン併催イベント」に釜石市が出展(2月、平成25年度～)



◀釜石市がホタテ浜焼きや海産物等の販売を行った。

## 2-8-1

③ 北九州市・釜石市  
連携協力協定の締結

“鉄の街”としてのつながりをきっかけとして始まった本市の釜石市への支援は、行政支援から、市民や企業等による支援、交流に広がっていった。

平成25年2月10日、今後も両市民による文化交流や産業交流、さらには行政施策の連携などを推進することを目的に、これまで以上に緊密な関係を築けるよう、両市は「連携協力協定」を締結した。

## 北九州市・釜石市連携協力協定書

福岡県北九州市と岩手県釜石市は、我が国の近代産業の発展を支えた「鉄の街」としての歴史的つながりや、東日本大震災における復興活動を通じて培われた両市民の友好関係を大切にしながら、お互いの信頼と尊敬に基づき、文化や産業などの交流を促進しながら両市がともに発展していくことを目指して、連携協力に関する協定をここに締結いたします。

平成25年2月10日

北九州市長

北橋健治

釜石市長

野田武則

## &lt;連携分野&gt;

## ◆世界遺産登録への連携した取り組み

- 「九州・山口の近代化産業遺産群」世界遺産登録推進協議会のメンバーとしての、両市の製鉄関連の史跡や稼働資産の世界遺産登録に向けた取り組みの推進。
- 今後の活用策等における連携協力の推進。

## ◆釜石市の復興・まちづくりの推進

- 釜石市の早期復興へ向けた両市の協力連携による新たなまちづくりの推進として、「スマートコミュニティプロジェクト」の推進。

## ◆防災・危機管理分野における連携した取り組み

- 釜石市の震災の経験を活かした、北九州市の防災・危機管理対策の推進。
- 釜石市の住民情報等のバックアップデータを北九州市で受け入れるなど、情報システム分野における危機管理体制の連携協力。

## ◆市民交流事業の推進

- 学校間や企業間の交流事業、また地域団体等によるお祭りやイベント交流事業など、市民交流事業の推進。
- ※連携分野における具体的事業等は、今後、釜石市の復興状況を考慮しながら検討。

北九州市・釜石市  
連携協力協定締結式

同日行われた市制50周年誕生祭の会場において、釜石直送のホタテやイカを振舞う「浜焼き」が行われ、釜石市から北九州市民に対して支援への感謝の気持ちが表された。一方、北九州市民から野田・釜石市長ほか釜石市職員に対して、多くの激励の声寄せられた。

さらにその夜、これまで釜石支援に取り組んだ市民、企業、団体や、市議会議員、市職員などが、野田・釜石市長ほか釜石からの来訪者を囲んで、協定締結を記念する「釜石交流会」が行われた（170名参加）。交流会では、両市長から協定締結が披露されるとともに、記念品の交換が行われた（本市からは大漁旗、釜石市からは虎舞の置物）。また、企業、団体等からは、釜石の復興に対するエールが贈られ、野田・釜石市長から本市の支援に対しては、改めて感謝の意が述べられた。

## 連携協力協定締結記念イベント



北九州誕生祭にて釜石浜焼きを出展し、ホタテを振舞う野田釜石市長。



締結記念の釜石交流会には170人が集まり、両市の更なる交流発展を誓った。



締結の記念品として、北九州市から大漁旗が釜石市に贈られた。



釜石市から記念品として、虎舞人形が本市に贈られた。

2-8-1

④ 2020年～2021年

◆ 市長表敬訪問

【令和3年10月15日】



▲釜石市の野田市長が来北され、北橋 北九州市長に復興支援への感謝を伝えた。

◆ ラグビーワールドカップメモリアルマッチに友好都市ブースを出店【令和2年10月】



◀釜石市で開催されたラグビーイベント「10・10メモリアルマッチ」に友好都市ブースを出展し、北九州の土産物の販売を行った。

出典：釜石市「換まず屈せず」

◆ 鉄の都のものがたり—釜石と八幡—

北九州市自然史・歴史博物館特別展覧会開催【令和3年10月～11月】



出典：特別展覧会ちらし



◀官営八幡製鉄所開業120周年を記念して、釜石から八幡に至る近代製鉄の発展と、製鉄業を機軸とする両市の交流をたどる特別展を開催した。開会式には両市の市長が出席し、テープカットを行った。



釜石市の復興状況  
01  
被災

# 多くの尊い命が奪われた、あの日

2011年3月11日。

三陸の雄大な自然に抱かれた美しいまちを  
未曾有の大地震が襲いました。

一瞬にして奪い去られた多くのかけがえのない命  
そして破壊されたまち…。

各地に甚大な被害をもたらした

東日本大震災によって、当たり前の日常は失われ  
人々の暮らしは一変しました。



出展・写真提供：①③④⑤⑧⑩⑫⑬⑭⑮ いわて震災津波アーカイブ、②⑥⑦⑨⑪⑯ 釜石市、⑧ 釜石市・澤田幸三氏撮影

# 明日へ向かって、と

やがて人々は、喪失の悲しみや苦しみの中から立ち上がり、前へと進み出しました。  
復興の礎音が響きわたり、少しずつ活気が戻り始めたまち。  
人々が安全に暮らせる新しいまちへと再生を続ける中で、  
お互いを思いやり、支え合う人々の「絆」も、より強く紡がれていきました。



被災後  
写真提供：釜石市



令和3年3月

東部地区 大町(現釜石市民ホール付近)



被災後  
写真提供：釜石市



令和3年1月

唐丹町(防潮堤)



被災後  
写真提供：釜石市



令和2年1月

平田地区

# もに一步ずつ



写真提供：釜石市

被災後

東部地区



令和3年3月

# 02 復興

## 明日へ向かって、

## ともに一歩ずつ



被災後

写真提供：いわて震災津波アーカイブ



令和3年3月

片岸地区(防潮堤)



被災後

写真提供：釜石市



令和3年3月

鵜住居小・釜石東中学校 (小・中学校は高台に移転)



被災後

写真提供：釜石市



令和3年3月

鵜住居駅周辺



被災後

写真提供：釜石市

東部地区(魚河岸)

令和2年1月





釜石鶴住居復興スタジアム 写真提供: 釜石市



KAMAISHI ——— KITAKYUSHU

釜石市と北九州市の

# 鉄のまちをつなぐ絆



復興支援を通じて紡がれた「絆」もあります。

釜石市と北九州市はともに「鉄の街」として栄えた歴史を持ち、それが縁で復興支援が始まりました。この10年間で、釜石市と北九州市は互いに助け合う「鉄の絆」でしっかりと結ばれました。



(スタジアム完成後)



(被災後)

釜石鶴住居復興スタジアム周辺 写真提供: 釜石市

## 「ラグビーのまち」釜石の復興のシンボル

「ラグビーのまち」釜石市は、「新日鐵釜石ラグビー部」の存在に由来します。

1978年から84年に日本選手権7連覇を成し遂げるなど、その圧倒的な強さから「北の鉄人」と呼ばれました。その後、21世紀の幕開けとともに設立された地域型クラブチーム「釜石シーウェーブスRFC」に「釜石ラグビー」の伝統と誇りが受け継がれています。

2019年に開催されたラグビーW杯において、開催都市の中で唯一新設されたのが、釜石鶴住居復興スタジアムでした。釜石市の復興のシンボルとして、市民の夢と希望と勇気に乗せたスタジアムは、震災で被害を受けた旧鶴住居小学校、旧釜石東中学校の跡地に建設され、震災の記憶と防災の知恵を次世代に伝える役割を持ち、このW杯で震災からの復興と支援への感謝を世界に発信しました。



震災祈念碑



シーウェーブスジュニア 写真提供: 釜石市

釜石市の復興状況  
04  
祈り



釜石祈りのパーク(防災市民憲章碑)

# 命を守り、 命を未来へつなげるために

甚大な被害をもたらした東日本大震災の経験は、多くの教訓を与えてくれました。

あの悲しみを二度と繰り返すことがないように、

そして未来の命を守るために大切なのは、震災から学んだ教訓を次の世代に伝えること。

釜石市では、東日本大震災からの復興完遂後の新たな地域社会を

作り上げていくまちづくりが進められています。



KAMAISHI ——— KITAKYUSHU



釜石祈りのパーク



釜石祈りのパーク



いのちをつなぐ未来館 (本市派遣職員中村 幸一氏 命名)

MESSAGE from  
**KAMAISHI**



釜石市長  
**野田 武則**  
TAKANORI NODA

## 釜石市からのメッセージ

北九州市からの東日本大震災復興に対するご支援に対し、釜石市を代表して心より御礼を申し上げます。

令和3年3月11日をもって東日本大震災から10年が経過いたしました。当市は、これまで、北九州市から派遣された皆様のお力添えもいただきながら、市民一丸となって一日も早い復旧・復興に向け取り組んだ結果、令和2年12月には応急仮設住宅での暮らしに終止符が打たれ、復興事業として計画された「復興公営住宅の建設」、「住宅再建用の宅地造成」や「防潮堤の整備」などハード事業に関しては令和3年の8月末をもって、全て完了することができました。

こうして無事に基盤整備などハード整備の完了を迎えることができたことは、ひとえに北九州市職員の皆様が当市の職員と一緒に復興事業に汗流して携わっていただいたおかげです。

もちろん、ハード整備の完了だけが復興の終わりではありません。いまだ「心の復興」が道半ばである被災者の方々がいらっしゃいますので、我々は被災者一人ひとりが心の復興を果たし、真に復興を実感するまで、寄り添ってまいります。

この10年間は、北九州市から派遣いただいた延べ454名にも及ぶ職員の皆様に、避難所運営、税申告受付、選挙事務、健康相談・心のケア、震災廃棄物処理など、当市の様々な分野においてご尽力をいただきました。また、北九州市の市民や多くの団体の方々からは、多大なる寄付金、義援金及び各種食材などの物資提供をいただいております。

物心両面にわたって、当市そして当市の被災者を支えていただき、本当に言葉では表しきれないところではありますが、あらためまして、これまでの復興支援に対し、釜石市民を代表して心から感謝と御礼を申し上げますとともに、引き続き変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

また、北九州市の皆さまとは、震災以降、それぞれの市で開催した各種イベントに参加するなどの交流もありました。コロナ禍のため、近年はなかなか実際に行き来をするのは難しい状況ではありますが、今後、1日も早くコロナ禍が終息し、また以前の様に自由に交流が図れるようになることを願っております。

最後に、貴市の益々のご発展を祈念して、当市からのメッセージとさせていただきます。

令和4年3月  
岩手県釜石市長 野田 武則